

区政区議会報告・地域情報を週刊で発行しています。ご意見をお寄せください。



日本共産党荒川区議会議員
斉藤くに子
区政ニュース

メール: arajcp@tcn-catv.ne.jp

区議団http://www.jcp-arakawakugidan.jp/くに子ブログhttp://s-kuniko.jugem.jp/



2022年2月27日No1289号

区役所直通3802-4627

fax3806-9246

★無料法律・生活相談会★

弁護士の定例相談は毎月第4月曜18時～

3月28日(月)

★北千住法律事務所での直接の相談予約も取ります。

★生活困窮対策に際してはご連絡ください。

荒川区荒川7-37-1(コミバス花の木停留所前)

Tel/Fax3806-5134

コロナウイルスとの関係で定例法律相談は完全予約制として密の状況をつくらないようにしたいと思います。

宜しくお願い致します。

①18:00～18:30

②18:40～19:10

③19:20～20:00

予約は先着順とします。前日までに予約がない場合は中止します。

コロナの自宅療養と宿泊療養

発熱外来 受診&PCR検査

東京都ホームページでの公表に同意いただいた医療機関(2月18日時点)

高橋医院・上智クリニック・小沼医院・武田内科クリニック・陳内科クリニック・竹内病院・生協診療所・わかすぎ小児科クリニック・田中整形・まつおかこどもクリニック・池田耳鼻咽喉科・岡田病院・汐入診療所・南千住内科クリニック・汐入耳鼻咽喉科・いなばキッズクリニック・南千住子どもクリニック・はたの耳鼻咽喉科・上野小児科・茂澤メディカルクリニック・

その他日暮里と尾久地域の病院を含めて区内42カ所

○家族に障害者がいる、がん患者がいる、医療従事者で仕事を休めないなど家庭内感染の心配が大きいご家庭でも、65才以上の方はホテル療養の対象外です。

オミクロン株は家庭内感染で拡大してきました。ホテル療養が出来るように東京都に申し入れると

ともに区としても検討する必要があるのではないのでしょうか。



自宅療養の場合(保健所と東京都が役割分担)

65才以上・重症化リスクの高い方や入院待機者

保健所からの毎日健康観察の電話連絡、または厚労省健康観察ツール「マイハーシス」に体温等を毎日入力。入力が途切れた時や気になることがあると保健所が電話連絡。パルスオキシメーターや食料の配送

医師会や薬剤師会の協力で
オンライン診療、往診、訪問看護などの支援
在宅での酸素投与や入院調整
必要な薬をお届け

50歳以上や基礎疾患など フォローアップセンター 医師などが健康観察

50歳未満
自分で健康観察
うさぎ東京 0120-673-440
24時間電話対応
連絡すれば診療など様々な相談

医療相談(遠隔診療・往診)食料品・パルスオキシメーターの配送などは「うちサポ東京」が手配する。

ホテル療養



保健所が都と調整して手配。
☎03-5320-5997に
直接申込み可。

無症状又は軽症・入院治療を要しないと判断される方
しかし、65才以上や基礎疾患のある方、免疫抑制剤や抗がん剤を用いている方、妊娠している方、アレルギー除去対応が必要である方は対象外

●荒川区保健所の健康観察は65才以上等になりましたが、それでも初回連絡はまず保健所が行いますので、1日300人400人の感染者確認が出ると応援体制を組んでも、その日に連絡が出来ず2日3日ばかりでした。パルスオキシメーターもすぐには届きませんでした。食料も自宅療養が終了してから届くお宅もありました。健康観察以外の事務処理の臨時体制をつくるべきはなかったでしょうか。



保健所が手配した食料品やパルスオキシメーター

「コロナ検査料」大幅な引き下げ		
検査項目	引き下げ前の診療報酬	引き下げ後の診療報酬
PCR検査(委託)	1万8000円	7000円(注)
PCR検査(委託以外)	1万3500円	
抗原検査(定性)	8000円	3000円
抗原検査(定量)		5800円

(注) PCR検査(委託)は経過措置として3月末まで1万3500円、4月から7000円。その他の検査は12月31日から引き下げられた

●医療機関は通常診療と発熱外来とPCR検査、ワクチン接種も重なって大変忙しかったと思います。

しかもPCR検査の診療報酬の大幅引き下げで検査をやるほど赤字です。荒川区は独自に1人1回当たり3,000円を補助してい

ますが、荒川区も医療関係者の声を政府に届けるべきでしょう。

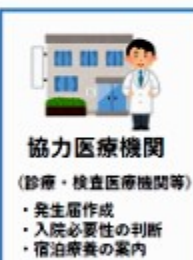
●東京都の制度で「検査医療機関等による自宅療養者への健康観察等支援事業」があり、患者一人当たりの協力金が支払われます。

区内で登録講評されている病院は11です。区として関係者の意見も聞き支援も増やし登録病院を増やすといいのではないのでしょうか。

- ① 医療機関受診・PCR検査
- ② 検査結果連絡(症状等の確認、My HER-SYS案内等)
- ③ 療養期間中、HER-SYS等や電話による健康観察を実施



自宅療養者
My HER-SYS等に健康状態を入力



協力医療機関
(診療・検査医療機関等)
・発生病作成
・入院必要性の判断
・宿泊療養の案内



保健所

●保健所も病院も通常から十分な余裕があること。地域の状況、患者さんの状況、顔が見える体制を構築することが必要ではないのでしょうか。



区施設活用で都PCR等無料検査の実施

2月25日(金)から区の施設を使って無料PCR検査を行うことになりました。



- 検査場所
 - ・荒川総合スポーツセンター 4階クラブ室
9:00~12:00、13:00~17:00 (3月まで無休)
 - ・男女平等推進センターアクト2 1階創作室
9:00~12:00、13:00~17:00 (3/8、3/13以外3月まで無休)
- 対象者と実施期間
 - ・無症状で、飲食、イベント、旅行・帰省等の経済社会活動を行うに当たり

検査が必要な方【2月25日(金)から3月31日(木)まで】

・無症状で、感染不安がある都内在住の方【2月25日(金)から3月6日(日)まで】

※実施期間は、都の事業実施期間等に合わせて延長となる場合あり

- 受けられる検査・PCR検査(唾液)抗原定性検査(鼻腔拭い液)
- 1日当たりの検査可能数・300件/日×2か所=600件/日
- 申込み、検査の流れ

- ・木下グループのホームページから事前にWEBで予約
- ・予約日時に検査場所に本人が行き検体採取
- ・予約時に登録したメールアドレスに検査結果が届く

※感染の疑いがあった場合は、かかりつけ医等に相談、受診

旧東京女子医大病棟で コロナ臨時医療施設開設

医療機関のコロナ用病床も逼迫ひっばくしており、高齢者施設で集団感染が起きて利用者が入院できないケースが出てきていた。

このため、入院先が決まるまでの間に過ごすことのできる施設を設けることにした。施設は昨年12月まで稼働していた旧東京女子医大東医療センターを活用。

50床を設け、透析や介護が必要な軽症から中等症の人を受け入れる。他の医療機関に入院し症状が改善した人が自宅や高齢者施設に戻るまでの期間を過ごす際にも利用できるようにする。

当面は国が医師や看護師ら28人を派遣。感染状況に応じて最大150床まで増やす方針。



政府も東京都も もっと早くすすめるべき

拡大への対策を具体化しませんでした。

急速な感染拡大による医療や介護の崩壊を防ぐ上で重要なPCR検査体制の確立も医療ベッドの確保も、もっと早くすすめるべきだったと思います。

- 東京都の無料検査は2月21日からは4カ所へ増えました。
- ◆ウエルシア薬局三ノ輪鶴前店 南千住 1-13-22
 - ◆ぽっぽ薬局 西日暮里 2-26-5
 - ◆PCR検査センター東京ラボ・コロナバスター西尾久店 西尾久 7-7-4
 - ◆くすりの福太郎 南千住調剤薬局 南千住 4-7-1 Bivil階

第6派が起きる可能性は、世界でのオミクロン株感染拡大を見ても当然日本も同様になることは容易に予想されました。しかし第5波からの3か月間政府も東京都も感染



生理用品を中学校のトイレに設置

#生理の貧困を議会でも繰り返し取り上げてきましたが、昨年12月に第四中学校で(保健室に準備)からモデル的に各トイレに常備する形に変えました。

1月からは区内中学校全校でトイレに設置されました。

本当に良かった！！



写真は都立高校トイレ

2021年6月会議 日本共産党北村あや子区議の一般質問から



誰もが使うトイレトイレットペーパーと同じように、生理用品は衛生を保つうえで必要不可欠なものです。生理の問題はタブー視されてきたゆえに、表面化しづらい問題です。

保護者の認識不足、ネグレクト、貧困など様々な理由で生理用品を買ってもらえない子どもたちがいます。学校に生理用品があれば助かる子どもたちがいます。

あえて保健室に取りに行かなくても、トイレにあれば誰の目にも触れることなく、安心して利用できます。急に生理になってしまった場合も助かります。

性教育が不十分で起こってしまう「からかい」から、多感な年齢の女子が、トイレに生理用品を持っていくことを恥ずかしいと感じてしまうことがあります。今後タブー視されないためにも、丁寧な性教育を行っていただきたいと合わせて要望します。

国は3月23日に地域女性活躍推進交付金の使途に生理用品無料配布を加えました。東京都も都立校で9月からトイレに生理用品を設置すると決めました。子どもたちの健康と尊厳にかかわる問題です。荒川区でも、小中学校と区施設のトイレに生理用品を常備することを改めて求めます。意思決定機関に女性が少ないため、これまで語られることのなかった生理の貧困。他の議員からも同様の質問がありました。区民が求めています。前向きにお答えください。

朗報です！！ 高齢者の補聴器補助は来年度実現へ

日本共産党区議団は、高齢者の補聴器購入助成の実現を強く求めてきました。2月の本会議でも重ねて質問をしました。

区は『長く快適に補聴器をご使用いただける支援体制構築に向け、様々な観点から検討を重ねてきた。補聴器使用の必要性の診断や認定補聴器専門店の紹介など医師の関与や、荒川たんぽぽセンターの聞こえに関する相談との連携などを勘案し、令和4年度から準備が整い次第、事業を開始する予定』と答弁。来年度には実現できる運びになりました。



港区では4月から助成額が上限13万7千円という画期的な助成制度が始まります。

ぜひ荒川区でも素晴らしい制度にして欲しいと思います。